


# シラバス

令和2年度

学校法人 伊藤学園

 優和福祉専門学校

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間の尊厳と自立		授業の種類 （講義） 演習・実習		授業担当者 藤谷 秀
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次・前期	必修・選択 必修	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間の多面的理解と尊厳の保持，自立・自律した生活を支える必要について理解することをねらいとする。「人間の尊厳」を理解することが，介護実践における人間理解の基本的原理であることを理解し，「尊厳」の内容を具体化する過程を通して介護を受ける人の尊厳を守ることの意義や，配慮すべきことを理解する。</li> </ul> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護福祉における<u>人間の尊厳と自立</u>の意義</li> <li>介護福祉士に求められる価値と倫理</li> <li>人間関係の形成と相互理解</li> <li><u>介護における尊厳の保持・自立支援</u></li> <li>人権尊重と権利擁護（アドボカシー）</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <p>人間としての尊厳の保持と，自立した生活を支える必要性を理解し，介護場面における倫理的課題について対応できる基礎となる能力を習得する。</p>				
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>オリエンテーションー本科目のねらいと概要</li> <li>介護福祉における人間の尊厳と自立のもつ意義 「人間」とは</li> <li>人権思想から導かれる<u>人間の尊厳と自立①</u>ー人間としての権利「人権」</li> <li>人権思想から導かれる<u>人間の尊厳と自立②</u>ー「尊厳」とは</li> <li>介護福祉士に求められる価値と倫理</li> <li>尊厳確保の基礎：人間関係の形成と相互理解① ー自己理解と他者理解</li> <li>尊厳確保の基礎：人間関係の形成と相互理解② ー価値観と環境の相互作用</li> <li>生活を通じた尊厳と自立の理解 「自律」とは</li> <li><u>介護における尊厳の保持と自立支援①</u> ー人間の尊厳と福祉</li> <li><u>介護における尊厳の保持と自立支援②</u> ー人間の自立・自律と福祉</li> <li>ヒューマニティとサイエンスの統合</li> <li>事例から見た<u>人間の尊厳と自立①</u>ー事例検討</li> <li>事例から見た<u>人間の尊厳と自立②</u>ーディスカッション</li> <li>事例から見た<u>人間の尊厳と自立③</u>ー発表</li> <li>本科目のまとめ</li> </ol>				
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> 黒澤 貞夫編「新・介護福祉士養成講座 1巻 人間の理解」 中央法規出版			<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> （試験やレポートの評価基準など） 定期試験、提出物、授業態度	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間関係とコミュニケーション I		授業の種類 (講義) 演習・実習		授業担当者 松本 友美 (実務 精神保健福祉士)	
授業の回数 15回		時間数 30時間		配当学年・時期 1年次・前期	
				必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護実践に必要な人間の理解や、他者への情報の伝達に必要な基礎的コミュニケーション能力を養うための学習とする。自己覚知と他者理解を深め、人間理解につなげていくことで、人間関係形成のためのコミュニケーション能力を修得することを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 支援関係における人間関係の形成</li> <li>・ <u>コミュニケーションの基礎</u>：対人関係とコミュニケーション・コミュニケーションの技法と実際</li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者に対して、あるいは多職種協働でのチームケアにおいて、円滑なコミュニケーションをとるための基礎的なコミュニケーション能力を習得する。</li> <li>・ アカウンタビリティ(説明責任)や根拠に基づく介護の実践のための、わかりやすい説明や的確な記録・記述を行う能力を習得する。</li> </ul>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション—本科目のねらいと概要—</li> <li>2 <u>人間関係の形成と心理①</u> —自己覚知・他者理解・ラポールの形成過程</li> <li>3 <u>人間関係の形成と心理②</u> —人間関係形成に必要な事柄</li> <li>4 <u>コミュニケーションの基礎①</u>—支援関係における人間関係の形成</li> <li>5 <u>コミュニケーションの基礎②</u>—対人関係とコミュニケーション</li> <li>6 <u>コミュニケーションの基礎③</u>—コミュニケーションを促す環境</li> <li>7 コミュニケーションの技法と実際①—対人距離（物理的・心理的距離）</li> <li>8 コミュニケーションの技法と実際②—表情・動作・視線</li> <li>9 コミュニケーションの技法と実際③—受容・共感・傾聴</li> <li>10 コミュニケーションの技法と実際④—言語的コミュニケーション</li> <li>11 コミュニケーションの技法と実際⑤—適切な敬語の利用，質問が利用者に与える影響</li> <li>12 道具を用いた言語的コミュニケーション①—機器を用いたコミュニケーション</li> <li>13 道具を用いた言語的コミュニケーション②—記述によるコミュニケーション</li> <li>14 同僚・多職種とのコミュニケーション</li> <li>15 本科目のまとめ</li> </ol>					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>黒澤 貞夫編 新・介護福祉士養成講座 1巻 「人間の理解」 中央法規出版</p> <p>新・介護福祉士養成講座 5巻 「コミュニケーション技術」 中央法規出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験、提出物、出欠席</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間関係とコミュニケーション II		授業の種類 (講義・演習)・実習		授業担当者 山本 浩美 (実務 看護師)
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次・後期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間関係の形成やチームで働く力を養うための、コミュニケーションやチームマネジメントの基礎知的な知識を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションを学ぶ。</li> <li>・ 組織におけるコミュニケーションについて学ぶ。</li> <li>・ リーダーシップ・フォロワーシップ等について学ぶ。</li> <li>・ チームマネジメントの基礎を学ぶ。</li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材育成や人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本が理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー本科目のねらいと概要ー</li> <li>2 ヒューマンサービスの特徴・特性、倫理・専門性を持つことの意義</li> <li>3 福祉サービスの組織の機能と役割（1）</li> <li>4 福祉サービスの組織の機能と役割（2）</li> <li>5 組織の構造と管理、コンプライアンス</li> <li>6 チームとリーダー</li> <li>7 チームの機能と構造</li> <li>8 リーダーシップ・フォロワーシップ</li> <li>9 リーダーの機能と役割</li> <li>10 業務課題の発見と解決過程（PDCA サイクル）</li> <li>11 問題解決法（演習）</li> <li>12 人材育成の方法（1）</li> <li>13 人材育成の方法（2）</li> <li>14 モチベーションマネジメント</li> <li>15 本科目のまとめ</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]	
<p>最新 介護福祉士養成講座（第5巻）</p> <p>「コミュニケーション技術」中央法規出版</p>			<p>（試験やレポートの評価基準など）</p> <p>定期試験、提出物、出欠席</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解 I		授業の種類 (講義) 演習・実習		授業担当者 岩 垣 穂
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 1 年次・前期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個人の暮らしと<u>生活</u>の在り方を社会福祉との関連でとらえ、意義と理念を理解する。個人と社会の関係性を知り、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助・互助・共助から公助にいたる過程について理解する。その上でわが国の<u>社会保障</u>について基礎的な理解をする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護福祉を展開する上で、支援の対象としての人間の「<u>生活</u>」を理解する。</li> <li>・ 私たちを取り巻く家族・地域・社会の変化と現状</li> <li>・ <u>生活の支援と福祉</u>の体系</li> <li>・ <u>社会保障制度</u>のしくみ</li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自身も利用者とともに「生活者」であるという視点を養い、人間が「家族」「近隣」「地域」さらに「社会」というそれぞれの単位集団の中で、「その役割を果たすこと」「自己実現をすること」を自らの意志に基づいて果たそうとすることが「自立」であり、さらに「自助」「互助」「共助」「公助」があることを学習し、それぞれの役割と意義を理解する。</li> <li>・ わが国の<u>社会保障制度</u>の基本的な考え方、変遷、しくみについて理解できる。</li> </ul>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー私達の<u>生活と社会福祉</u></li> <li>2 <u>生活と福祉①</u>ー<u>生活の構造</u></li> <li>3 <u>生活と福祉②</u>ー<u>家族とは</u></li> <li>4 <u>生活と福祉③</u>ー<u>家族・地域・社会と個人</u></li> <li>5 <u>生活と福祉④</u>ー<u>現代におけるライフスタイルの変化</u></li> <li>6 <u>生活の支援と福祉</u>の体系</li> <li>7 <u>社会保障の基礎的な考え方</u>ー<u>社会保障の概念と役割</u></li> <li>8 日本の<u>社会保障制度</u>の発達①ーわが国の<u>社会保障制度</u>の基本的考え方</li> <li>9 日本の<u>社会保障制度</u>の発達②ー戦後の緊急援護と<u>社会保障の基盤整備</u>ー</li> <li>10 日本の<u>社会保障制度</u>の発達③ー国民皆保険、皆年金の整備から福祉六法の成立ー</li> <li>11 日本の<u>社会保障制度</u>の発達④ー地域分権と地域福祉の充実ー</li> <li>12 日本の<u>社会保障制度</u>のしくみ①ー<u>社会保障制度</u>の体系としくみ</li> <li>13 日本の<u>社会保障制度</u>のしくみ②ー今日の<u>社会保障制度</u></li> <li>14 日本の<u>社会保障制度</u>のしくみ③ー<u>社会保障</u>の財源</li> <li>15 まとめー社会と私との関係</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
秋元美世・小澤敦 編メヂカルフレンド 「最新介護福祉全書第 2 巻 社会の理解」 「新・介護福祉士養成講座 16 資料編」中央法規		（試験やレポートの評価基準など） 定期試験、提出物、出欠席		

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 社会の理解Ⅱ	授業の種類 （ <u>講義</u> ） 演習・実習）		授業担当者 藤 卷 悟 （実務 社会福祉士）
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 2 年・前後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>「社会の理解Ⅰ」と踏まえ、介護福祉士として日常の仕事を行う上で必要となる「<u>介護保険制度</u>」「<u>障害者自立支援制度</u>」および<u>介護実践に関する諸制度</u>を習得する</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>介護保険制度</u></li> <li>・ <u>障害者自立支援制度</u></li> <li>・ <u>介護実践に必要とされる諸制度（個人情報保護法、成年後見制度等）</u></li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護福祉士としての業務に必要な介護保険制度、障害者自立支援制度、介護実践に関する諸制度の実践的知識を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー本科目の概要とねらい</li> <li>2 <u>介護保険制度①</u>ー介護保険制度創設の背景及び目的</li> <li>3 <u>介護保険制度②</u>ー介護保険制度のしくみの基礎的理解</li> <li>4 <u>介護保険制度③</u>ー介護予防の概念</li> <li>5 <u>介護保険制度④</u>ー介護保険制度の財源</li> <li>6 <u>介護保険制度⑤</u>ー介護保険制度における組織・団体の役割</li> <li>7 <u>介護保険制度⑥</u>ー介護保険制度における専門職の役割</li> <li>8 社会福祉基礎構造改革と障害者施策</li> <li>9 <u>障害者自立支援制度①</u>ー制度のしくみ</li> <li>10 <u>障害者自立支援制度②</u>ーサービスの種類</li> <li>11 <u>障害者自立支援制度③</u>ーサービス内容</li> <li>12 <u>介護実践に関する諸制度①</u>ー個人の権利を守る制度の概要</li> <li>13 <u>介護実践に関する諸制度②</u>ー保健・医療にかかわる諸施策</li> <li>14 <u>介護実践に関する諸制度③</u>ー生活を支える諸制度のあらまし</li> <li>15 <u>介護実践に関する諸制度④</u>ー高齢者・障害者の住生活を支援する諸施策</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>秋元美世・小澤敦 編「最新介護福祉全書 第2巻 社会の理解」 メヂカルフレンド社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など） 定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 人間関係論	授業の種類 （講義） 演習 ・ 実習	授業担当者 野呂瀬 秀	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年次・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>楽しみながら、人間の心と行動や人間関係のあり方にかかわる問題について理解を深め、その発達とライフステージごとの心理的特性と健康づくりについて学ぶ。また、人間関係づくりと諸問題を組織的に取り上げ、自らの意識と行動のあり方を見直す機会を提供する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人間の心と行動や人間関係のあり方にかかわる問題について理解を深め、その発達とライフステージごとの心理的特性と健康づくりについて学ぶ。また、人間関係づくりと諸問題を組織的に理解し、自らの意識と行動のあり方を見直す</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>人間の心と行動や人間関係のあり方にかかわる問題について理解を深め、その発達とライフステージごとの心理的特性と健康づくりについて理解する。人間関係づくりと諸問題を組織的に理解し、自らの意識と行動のあり方を見つめる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 オリエンテーション 授業の概要</p> <p>2 コミュニケーションを高めるアイスブレイクとは</p> <p>3 コミュニケーションを高めるアイスブレイクの基本技術</p> <p>4 コミュニケーションを高めるアイスブレイクの素材、楽しみ方</p> <p>5 対人間関係をつくるコミュニケーション “私” を伝える “あなた” を聴く</p> <p>6～7 ホスピタリティとは、基本技術、示し方</p> <p>8 組織体のあり方と 生涯発達と自己表現</p> <p>9 自己のキャリアをデザインしてみる</p> <p>10 “死ぬこと” から “生きること” を考える</p> <p>11～13 アクティビティの選択、展開方法、発表</p> <p>14 自己の主張を理解し、発表する</p> <p>15 まとめ 分析方法</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>服部 祥子著「人を育む人間関係論」                  野呂瀬 秀著「いきいき、ゆうゆう健康法」</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>（試験やレポートの評価基準など）                  定期試験、提出物「レポート」、授業態度                  出欠席</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 家族社会学		授業の種類 （講義） 演習 ・ 実習 ）		授業担当者 堤マサエ	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次・前期		必修・選択 必修	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>                  家族に関する基礎的知識および系統的理解を修得する。また現代家族をめぐる危機や課題を学ぶとともに、介護福祉士の視点から今後求められる家族支援のあり方について考える。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>                  家族に関する基礎的知識として、家族の歴史と概念、家族の形態と機能、戦後日本の社会と家族問題等の基礎的概念を述べる。</p> <p>今日の日本社会では、高齢者の介護が普遍的な問題となっている一方、家族の機能低下が指摘されている。このため、家族支援を射程に入れながら、現代の家族病理の諸相を概観し、家族の本来的なあり方とその機能を考察する。</p> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b>                  人の一生と家族のあり方、日本の家族がどのように変化をしてきたかを学び、高齢者介護における家族のあり方を考えることで、介護福祉士として家族支援の視点を持ち、適切な判断力・問題解決への対応力を身につける。</p>					
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>                  コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー家族社会学を学ぶことの意義</li> <li>2 家族に関する基礎的知識①ー家族・家庭とは</li> <li>3 家族に関する基礎的知識②ー家族の歴史</li> <li>4 家族に関する基礎的知識③ー核家族と近代家族</li> <li>5 家族に関する基礎的知識④ー家族の形態・家族の機能</li> <li>6 家族に関する基礎的知識⑤ー家族内の地位と役割</li> <li>7 家族の変動と多様性①ー日本社会の暮らしをめぐる変化</li> <li>8 家族の変動と多様性②ー家族とライフサイクル</li> <li>9 家族の変動と多様性③ー家族とライフコース</li> <li>10 家族の変動と多様性④ー人の一生と家族の危機</li> <li>11 家族の変動と多様性⑤ー家族関係の多様性</li> <li>12 家族支援①ー現代の家族と医療・介護</li> <li>13 家族支援②ー家族機能と社会的支援</li> <li>14 家族支援③ー家族支援のあり方</li> <li>15 少子高齢社会と家族のゆくえー介護福祉士の役割</li> </ol>					
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>                  堤マサエ著「地方の社会学」学文社                  森岡 清美 望月 嵩「新しい家族社会学」                  『『無縁社会』に高齢期を生きる』アユスの森新書</p>			<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>                  （試験やレポートの評価基準など）                  定期試験、提出物、授業態度</p>		



## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 国 語	授業の種類 ( 講義 ) 演習 ・ 実習	授業担当者 高 木 法 子																																														
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 1 年次・前期	必修・選択 必修																																													
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読む力：資料、報告書を正しく読み取る。話す力：聞き取りやすい音声で、聞いて意味の分かる言葉を選び的確に報告する。聞く力：会話から、多くの情報が得られる。発語を促す聞き方を学び、相手を理解するのに役立つ。書く力：状況、経過、結果の報告を、読みやすく正しい表記で伝える。以上の力を鍛えるために、講義と演習、実技を通して学びあう。「助け合って学ぶ」ことに重点を置く。</li> </ul> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <p>90分授業の前半を講義、説明とし、後半は演習としてワークを中心に学びあう。「わかる」「知る」から「できる」になるまで学習する。</p> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <p>人間関係の形成に必要な言葉を使いこなし、より円滑なコミュニケーションができるようになり、自分の特性を生かした対応を身に付け、今後の学びの基礎とする。</p>																																																
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 5%;">1</td><td style="width: 75%;">オリエンテーション・自己紹介</td><td style="width: 20%;"></td></tr> <tr><td>2</td><td>他己を知る。①</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> <tr><td>3</td><td>自己を知る。①</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> <tr><td>4</td><td>自己を知る。②</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> <tr><td>5</td><td>話して「伝える」</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> <tr><td>6</td><td>書いて「伝える」</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> <tr><td>7</td><td>話して「説明する」</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> <tr><td>8</td><td>書いて「説明する」</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> <tr><td>9</td><td>話して「報告する」</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> <tr><td>10</td><td>書いて「報告する」</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> <tr><td>11</td><td>聞き取りの練習</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> <tr><td>12</td><td>聞き取りの練習</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> <tr><td>13</td><td>総合的なワーク</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> <tr><td>14</td><td>総合的なワーク</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> <tr><td>15</td><td>総合的なワーク</td><td>常識問題演習(グループ学習)</td></tr> </table>				1	オリエンテーション・自己紹介		2	他己を知る。①	常識問題演習(グループ学習)	3	自己を知る。①	常識問題演習(グループ学習)	4	自己を知る。②	常識問題演習(グループ学習)	5	話して「伝える」	常識問題演習(グループ学習)	6	書いて「伝える」	常識問題演習(グループ学習)	7	話して「説明する」	常識問題演習(グループ学習)	8	書いて「説明する」	常識問題演習(グループ学習)	9	話して「報告する」	常識問題演習(グループ学習)	10	書いて「報告する」	常識問題演習(グループ学習)	11	聞き取りの練習	常識問題演習(グループ学習)	12	聞き取りの練習	常識問題演習(グループ学習)	13	総合的なワーク	常識問題演習(グループ学習)	14	総合的なワーク	常識問題演習(グループ学習)	15	総合的なワーク	常識問題演習(グループ学習)
1	オリエンテーション・自己紹介																																															
2	他己を知る。①	常識問題演習(グループ学習)																																														
3	自己を知る。①	常識問題演習(グループ学習)																																														
4	自己を知る。②	常識問題演習(グループ学習)																																														
5	話して「伝える」	常識問題演習(グループ学習)																																														
6	書いて「伝える」	常識問題演習(グループ学習)																																														
7	話して「説明する」	常識問題演習(グループ学習)																																														
8	書いて「説明する」	常識問題演習(グループ学習)																																														
9	話して「報告する」	常識問題演習(グループ学習)																																														
10	書いて「報告する」	常識問題演習(グループ学習)																																														
11	聞き取りの練習	常識問題演習(グループ学習)																																														
12	聞き取りの練習	常識問題演習(グループ学習)																																														
13	総合的なワーク	常識問題演習(グループ学習)																																														
14	総合的なワーク	常識問題演習(グループ学習)																																														
15	総合的なワーク	常識問題演習(グループ学習)																																														
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>「国語常識の総演習」 京都書房                  人間の理解」 中央法規出版</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>定期試験、提出物、授業態度</p>																																														

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 統計・情報処理	授業の種類 (講義) 演習・実習)		授業担当者 江崎晃平 横山浩一
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]          情報化社会における統計や情報処理の方法を理解し、効果的に活用できる能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]          PC操作の基礎知識を学び、活用の方法を理解するとともに、セキュリティを配慮して実際に使用できる技能を培う。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]          PC操作により文章作成、統計処理、効果的なプレゼンテーションの技能を身に着ける。又、必要な情報収集と処理ができる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]          コマ数</p> <p>1・2 PC学習の心構え・Windowsの基本          3・4 セキュリティ・文字入力・変換          5 ファイルの保存・ページ設定・印刷・移動・コピー          6・7 操作の基本          8・9 表の書式・ワードアート・クリップアート          10・11 Excel 関数 グラフ 罫線          12・13 グラフ 応用関数          14・15 パワーポイント</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]          「30時間でマスター office          2016Windows10対応」実教出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]          (試験やレポートの評価基準など)          定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本 I （介護対象論）	授業の種類 （講義） 演習 ・ 実習	授業担当者 堀内久子 （実務 介護福祉士）	
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 1 年次・前期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>介護の意義と役割及び専門性について介護の歴史や関連法則を通して理解する。                  介護を必要とする人は“生活する人”として受け止め、利用者の生き方、生活習慣などその人らしさを尊重し、<u>尊厳を守る介護、自立に向けた介護</u>について理解することを深める。</p> <p>また、領域「人間と社会」や「こころとからだのしくみ」で学んだ人間や社会を理解する視点から介護の専門性を理解する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護の意味を理解するとともに、専門職による「介護」が誕生した社会的な背景および介護の概念の変遷について学ぶ。</li> <li>・私たちの生活を理解し、介護を必要とする人たちの暮らしの多様性について事例を通じて学ぶ。</li> </ul> <p><b>[ 授業修了時の達成課題（到達目標） ]</b></p> <p>介護の意義と役割及び専門性について理解し、介護福祉士として介護を必要とする人達の多様な暮らしをどのように支援していけばよいか理解できる。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 介護福祉士のイメージ</li> <li>2 介護の成り立ち</li> <li>3 介護の成り立ち（介護の歴史）</li> <li>4 専門職による「介護」が誕生した社会的な背景</li> <li>5 介護の概念の返還（1970～1980 年代）</li> <li>6 介護の概念の返還（1980～1990 年代）</li> <li>7 介護の概念の返還（1990～2000 年代）</li> <li>8 介護の概念の返還（2000 年代）</li> <li>9 介護を必要とする人の理解（私たちの生活の理解）</li> <li>10 介護を必要とする人の理解（私たちの生活の理解）</li> <li>11 介護を必要とする人の理解（高齢者の暮らしの理解）「ゴールドプラン」</li> <li>12 介護を必要とする人の理解（高齢者の暮らしの理解）「介護保険制度」</li> <li>13 介護を必要とする人の理解（障害のある人の暮らしの理解）「障害者総合支援法」</li> <li>14 介護を必要とする人の理解（その人らしさ・生活ニーズ）</li> <li>15 介護を必要とする人の理解（生活のしづらさの理解とその支援）</li> </ol>			
<p style="text-align: center;"><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> 新・介護福祉士養成講座第 3・4 巻 「介護の基本 I・II」中央法規出版		<p style="text-align: center;"><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> （試験やレポートの評価基準など） 定期試験、提出物、授業態度	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅱ （ <u>介護従事者の倫理</u> ）		授業の種類 （ <u>講義</u> ）・ 演習 ・ 実習		授業担当者 堀 内 久 子 （実務 介護福祉士）
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 1 年次・前期	必修・選択 必修	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>求められる介護福祉士になるために介護福祉士の基本理念を理解し、介護にたずさわる人が持つべき職業倫理を学び、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <p>介護福祉士の基本理念（ノーマライゼーション・QOL・自己決定・利用者主体）、介護従事者の倫理について学び、演習にて理解を深める。また、その人らしさを尊重し、尊厳を守る介護、自立に向けた介護について ICF を活用できるように学ぶ。</p> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <p>介護福祉士の基本理念（ノーマライゼーション・QOL・自己決定・利用者主体）、ICF、介護従事者の倫理を理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を習得する。</p>				
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 授業の概要と学ぶ上での留意事項</li> <li>2 介護福祉士の基本理念（ノーマライゼーション・QOL・自己決定・利用者主体）</li> <li>3 介護福祉士養成カリキュラムの変遷（求められる介護福祉士像）</li> <li>4 介護福祉士を支える団体（日本介護福祉士会）</li> <li>5 介護福祉士の活動の場と役割（地域包括支援センター・介護予防・医療的ケア）</li> <li>6 社会福祉士及び介護福祉士法の概要（介護福祉士が守るべき義務規定の意味 FF09）</li> <li>7 介護福祉士の倫理（職業倫理・普遍的倫理判断・プライバシーの保護・高齢者虐待）</li> <li>8 事例演習</li> <li>9 日本介護福祉士会の倫理綱領・倫理基準（行動規範）</li> <li>10 事例演習</li> <li>11 自立支援の考え方（自己選択・自己決定・エンパワメント・ストレングス）</li> <li>12 事例演習</li> <li>13 ICF の考え方（相互作用・プラスを増やす・内的資源・外的資源）</li> <li>14 事例演習</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>新・介護福祉士養成講座第3・4巻                  「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版</p>			<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>（試験やレポートの評価基準など）                  定期試験、提出物、出欠席、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅲ（ <u>介護サービス</u> ）	授業の種類 （ <u>講義</u> ） 演習・実習	授業担当者 野 中 和 美 （実務 看護師）	
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 1 年次・後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p><u>介護サービス提供の場の特性</u>について、これまでの居宅から地域密着型サービスのサービスが求められる時代的背景とその取り組み、医療・保健・福祉との<u>介護サービスの連携</u>の必要性を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護サービス提供の場の特性について理解し、医療・保健・福祉との連携の必要性を学ぶ。また、介護の専門性のレベルを向上する必要性を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>介護サービスの提供について、<u>介護サービスの概要</u>、チームアプローチによるサービスの提供、他職種の専門性の理解と地域との<u>連携</u>について実践現場のイメージが図れる。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 授業の概要と学ぶ上での留意事項</li> <li>2 <u>介護サービスの概要</u></li> <li>3 <u>介護サービスの概要</u></li> <li>4 <u>介護サービスの概要</u>（ケアプラン、ケアマネジメントの流れ）</li> <li>5 <u>介護サービスの概要</u>（ケアプラン、ケアマネジメントのしくみ）</li> <li>6 介護保険サービスの種類 介護施設・ユニットケアとは</li> <li>7 介護保険サービスの種類 富山型デイサービス・「バイスティクの7原則」</li> <li>8 介護保険サービスの報酬</li> <li>9 介護保険サービスの報酬</li> <li>10 サービスの報酬、算定基準</li> <li>11 サービスの報酬、算定基準</li> <li>12 <u>介護サービス提供の場と特性</u>（居宅）</li> <li>13 <u>介護サービス提供の場と特性</u>（施設）</li> <li>14 <u>介護サービス提供の場と特性</u></li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
使用テキスト・参考文献 新・介護福祉士養成講座第3・4巻 「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 定期試験、提出物、出欠席	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本Ⅳ （ <u>介護従事者の安全</u> ）	授業の種類 （ <u>講義・演習</u> ）・実習	授業担当者 山本 浩美 （実務 看護師）	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次 前期 後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>                  多様な介護現場で利用者の生活の安全と<u>介護従事者の安全</u>を守り介護を展開するための基礎的な力を培い、応用力を身につける。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>                  介護における安全の概念を予防・自立の視点から考察し、安全を確保するための知識、技術、事故防止や安全の対策、感染対策、緊急時対応、介護従事者の健康管理の必要性について学ぶ。</p> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b>                  ①介護実践における安全を管理（安全対策・感染対策）するための基礎知識・技術が理解できる。                  ②介護従事者自身の健康管理や労働環境の管理について理解できる。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>                  コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 授業の概要と学ぶ上での留意事項</li> <li>2 感染予防（感染予防の意義と介護 基礎知識と技術）</li> <li>3 感染予防（感染管理 衛生管理：演習）</li> <li>4 介護と安全（観察 正確な技術 予測・分析）</li> <li>5 安全の概念</li> <li>6 安全の確保とリスクマネジメント（事故防止と安全対策）セーフティマネジメント</li> <li>7 安全の確保とリスクマネジメント（事故防止と安全対策）緊急連絡システム</li> <li>8 安全の確保とリスクマネジメント（医療対応 転倒・転落防止、骨折予防など）</li> <li>9 安全の確保とリスクマネジメント（防火・防災対策 利用者の生活の安全）</li> <li>10 安全の確保とリスクマネジメント（ヒヤリハット）</li> <li>11 <u>介護従事者の安全</u>（心の健康管理ーストレス 燃え尽き症候群他）</li> <li>12 <u>介護従事者の安全</u>（腰痛予防の対策）</li> <li>13 <u>介護従事者の労働安全</u></li> <li>14 <u>介護従事者の労働安全</u></li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>                  最新 介護福祉士養成講座（第4巻）                  第3章・第5章                  「介護の基本Ⅱ」中央法規出版</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>                  （試験やレポートの評価基準など）                  定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本V（ <u>介護協働・連携</u> ）		授業の種類 （ <u>講義</u> ） 演習・実習		授業担当者 大浦 博文 (実務 介護福祉士)	
授業の回数 15回		時間数 30時間		配当学年・時期 2年次・後期	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>専門職能力を活用してチーム援助を行うことで、より良い介護を提供することの必要性を理解し、<u>介護実践にける協働・連携</u>のあり方を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>身体、精神の健康状態の変化に介護福祉士としての対応できる能力を養い、同時に保健医療関係者及び機関との連携、協働のあり方について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>専門職能力を活用してチーム援助を行うことで、より良い介護を提供することの必要性を理解し、<u>介護実践にける協働・連携</u>のあり方について理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 授業の概要と学ぶ上での留意事項</li> <li>2 チームワークの必要性</li> <li>3 チームワークの必要性</li> <li>4 記録と情報の共有化</li> <li>5 記録と情報の共有化</li> <li>6 法令に基づく連携</li> <li>7 法令に基づく連携</li> <li>8 <u>介護実践における連携</u> (保健医療職種の機能と役割・連携)</li> <li>9 <u>介護実践における連携</u> (多職種連携 チームアプローチ)</li> <li>10 <u>介護実践における連携</u> (多職種連携 チームアプローチ)</li> <li>11 <u>介護実践における連携</u> (多職種連携 チームアプローチ)</li> <li>12 <u>介護実践における連携</u> (多職種連携 地域連携の意義と目的)</li> <li>13 <u>介護実践における連携</u> (多職種連携 地域連携 地域住民・ボランティア等のインフォーマルサービスの機能と役割)</li> <li>14 <u>介護実践における連携</u> ( 地域包括支援センターの機能と役割、連携)</li> <li>15 <u>介護実践における連携</u> (市町村、都道府県の機能と役割、連携)</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
新・介護福祉士養成講座第3・4巻 「介護の基本Ⅰ・Ⅱ」中央法規出版			(試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、出欠席		

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護の基本VI（ <u>リハビリテーション</u> ）		授業の種類 ( <u>講義</u> ) 演習・実習		授業担当者 小林 正樹 (実務 理学療法士)	
授業の回数 15回		時間数 30時間		配当学年・時期 2年次・前期	
必修・選択 必修					
<p>[授業の目的・ねらい]  <u>リハビリテーション</u>の概念を理解し、生活支援の向上の重要な役割となっていて介護予防の取り組みを理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]  <u>リハビリテーション</u>の目的は人間らしく生活できるよう支援することである事について学ぶ。また、介護保険における<u>リハビリテーション</u>と専門職との連携について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]  <u>リハビリテーション</u>の目的は人間らしく生活できるよう支援することであるについて理解する。また、介護保険における<u>リハビリテーション</u>と専門職との連携について理解する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 授業の概要と学ぶ上での留意事項</li> <li>2 <u>リハビリテーションの考え方</u>（概念）</li> <li>3 <u>リハビリテーションの理念</u></li> <li>4 介護保険制度と<u>リハビリテーション</u></li> <li>5 現代社会と<u>リハビリテーション</u></li> <li>6 <u>リハビリテーション・ニーズ</u></li> <li>7 <u>リハビリテーションのサービス体系</u>（全体像）</li> <li>8 <u>リハビリテーションのサービス体系</u>（サービス体制）</li> <li>9 <u>リハビリテーションのサービス体系</u>（関わる専門職との連携）</li> <li>10 <u>リハビリテーションの実際</u>（病院、施設における<u>リハビリテーション</u>）</li> <li>11 <u>リハビリテーションの実際</u>（在宅における<u>リハビリテーション</u>）</li> <li>12 <u>リハビリテーションの実際</u></li> <li>13 介護予防</li> <li>14 地域における<u>リハビリテーション</u>の意義と介護</li> <li>15 まとめ</li> </ol>					
[使用テキスト・参考文献] 澤村誠志編 最新介護福祉全書 別巻2「 <u>リハビリテーション論</u> 」 メヂカルフレンド社			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、出欠席		



## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術 I	授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 山本浩美 (実務 看護師)	
授業の回数 8回	時間数 16時間	配当学年・時期 1年次・前期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>                      介護福祉士としてコミュニケーションはすべての対人援助技術の基盤となるものである。自身の態度やコミュニケーションがいかに関者へ影響を及ぼすかを理解するなかで、多種多様な利用者の状態、ニーズに対応するための適切なコミュニケーションの手段・方法を学ぶ。</p> <p>また家族・多職種間でもその状況に応じたコミュニケーション方法の理解を深める。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>                      自己覚知 (エゴグラム、日常生活の振り返り等) を通し、自分自身の他者との関わり方を再認識、見直しを行うなかで介護において必要な<u>尊厳を護るコミュニケーション技術</u>の基本を理解する。</p> <p><b>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護における基礎的なコミュニケーション技術の理解ができる。</li> <li>・自身の特性を客観的に認識でき、それを言語化できる。</li> <li>・他者に対する自身のコミュニケーションの特性を理解、修正ができる。</li> <li>・さまざまな疾患に応じた適切なコミュニケーション方法が理解できる。</li> </ul>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b>                      コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業概要説明 援助者としての自己覚知・理解</li> <li>2. 介護福祉実践におけるコミュニケーションの意義・目的・役割</li> <li>3. 介護におけるコミュニケーションの基本1 (受容・共感・傾聴)</li> <li>4. 介護におけるコミュニケーションの基本2</li> <li>5. 利用者・家族とのコミュニケーションの実際1 (信頼関係・チームケア)</li> <li>6. 利用者・家族とのコミュニケーションの実際2 (事例に基づく)</li> <li>7. 対象者の特性に応じたコミュニケーション技法の実際1 (事例に基づく)</li> <li>8. 対象者の特性に応じたコミュニケーション技法の実際2 (事例に基づく)</li> </ol>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>                      松井奈美編 最新介護福祉全書                      第4巻「コミュニケーション技術」                      メヂカルフレンド社                      最新 介護福祉士養成講座 第5巻                      「コミュニケーション技術」中央法規出版</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>                      (試験やレポートの評価基準など)                      定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術Ⅱ		授業の種類 (講義) 演習・実習		授業担当者 高野 享子 (実務 介護福祉士)
授業の回数 8回	時間数 16時間	配当学年・時期 1年次・前期・後期		必修・選択 必修
<p><b>【授業の目的・ねらい】</b></p> <p>介護福祉士としてコミュニケーションはすべての対人援助技術の基盤であり、チームケアをおこなうにあたっては多職種との連携、コミュニケーションは欠かすことのできないものである。</p> <p>また文書を通して介護実践に必要とされる情報を多職種に伝達する技術を学び、個人情報情報の扱い方、情報の共有、管理方法を理解し、実践可能となる能力を培う。</p> <p><b>【授業全体の内容の概要】</b></p> <p>介護福祉士の専門性を発揮するためには、コミュニケーションは利用者・家族だけでなく多職種との連携に際しても重要な意味を持つ。</p> <p>そのなかで本授業では、各専門職と文章を通して意思疎通を図るための記述方法を学んでいく。</p> <p><b>【授業修了時の達成課題 (到達目標)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種とのコミュニケーションに対する重要性・方法を理解できる。</li> <li>・介護記録の重要性を理解し、記録を書く際の留意点を学ぶ。</li> <li>・個人情報情報の取扱いに関して理解できる。</li> <li>・会議の行い方や効率的な進行について理解する。</li> <li>・プロセスレコードを通して自身のコミュニケーションを振り返り、反省できる。</li> </ul>				
<p><b>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護におけるチームのコミュニケーション (介護記録の意義と役割)</li> <li>2. 介護におけるチームのコミュニケーション (介護記録の書き方と注意点)</li> <li>3. 介護におけるチームのコミュニケーション (ICTを活用した介護記録 個人情報)</li> <li>4. 介護におけるチームのコミュニケーション (報告と申し送り 会議の意義と目的)</li> <li>5. コミュニケーション再考と学習方法 (プロセスレコード)</li> <li>6. コミュニケーション再考と学習方法 (プロセスレコード)</li> <li>7. コミュニケーション再考と学習方法 (プロセスレコード)</li> <li>8. コミュニケーション再考と学習方法 (プロセスレコード)</li> </ol>				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>松井奈美編 メヂカルフレンド社 コミュニケーション技術 介護福祉士養成講座編集委員会 「コミュニケーション技術」中央法規出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術Ⅲ	授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 利根川 圓 須田千文	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年次・前期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護場面における利用者と家族とのコミュニケーションを理解し、利用者に関わる人々と利用者の関係調整能力を習得する。また文書を通して、介護実践に必要とされる情報を関係者に伝達する技術を学び、個人情報の扱い方や、情報の共有、管理の仕方を理解し、実践可能となる能力を培う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護場面における利用者と家族とのコミュニケーションにおいて、利用者のコミュニケーション障害の程度や種別について理解し、観察を通して把握する必要性を学ぶ。利用者と介護者の心にゆとりを持たせ、ストレス軽減を目指したコミュニケーションの技術を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>介護場面における利用者と家族とのコミュニケーションにおいて、利用者のコミュニケーション障害の程度や種別について理解し、観察を通して把握する必要性を学ぶ。利用者と介護者の心にゆとりを持たせ、ストレス軽減を目指したコミュニケーションの技術を身につける。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 コミュニケーション障害の程度や種別</li> <li>2 介護場面における利用者と家族とのコミュニケーション障害の特性に応じたコミュニケーション</li> <li>3 手話の構成要素、身につけるための留意点</li> <li>4 感情・時間・物の表現・動作を表す表現</li> <li>5 数の表現・指文字</li> <li>6 あいさつと自己紹介</li> <li>7 人物の表現</li> <li>8 会話練習</li> <li>9 点字の基礎</li> <li>10 仮名づかい</li> <li>11 数字</li> <li>12 アルファベット</li> <li>13 記号類</li> <li>14 点字表記 (点字の決まり)</li> <li>15 簡単な各種文書の書き方</li> </ol>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「入門 新 手話教室」全日本ろうあ連盟                  「初めての点訳 第2版」(株)大活字</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)                  定期試験、提出物、出欠席</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル(科目名) 生活支援技術 I	授業の種類 ( 講義 ・ 演習 ・ 実習 )		授業担当者 高野 享子・堀内 久子 小俣 登喜子(実務介護福祉士)
授業の回数 30 回	時間数 60 時間	配当学年・時期 1 年次・前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。			
[授業全体の内容の概要] 尊厳と自立・自律した生活を支える生活支援技術を理解し、「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用して、ICF の概念に基づいたアセスメントを行い福祉用具の活用し、個々の利用者の生活の違いや変化をもとに適切な生活支援や自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた移動の介護安楽を促すための介護の技術を学ぶ。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標) ] 尊厳と自立・自律した生活を支える生活支援技術を理解し、「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用して、ICF の概念に基づいたアセスメントを行い、福祉用具を活用し、個々の利用者の生活の違いや変化をもとに適切な生活支援や自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた移動の介護、自立に向けた睡眠の介護、安楽を促すための介護の技術を身につける。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] 1～2 自立に向けた生活支援における共通知識 (堀内 久子) 生活支援の考え方 ICF の考え方 福祉用具の活用 性に対する介護 3～5 自立に向けた居住環境の整備 (環境整備・ベッドメイキング・リネンの管理) 居住環境整備の意義と目的 安全で心地よい生活の場づくり(堀内久子) 6 *デモンストレーション (堀内・高野) 7～8 学内実習 (環境整備・ベッドメイキング) (堀内・高野) 9～10 自立に向けた移動の介護 (高野) 11 *デモンストレーション (体位変換・ボディメカニクス) (高野・小俣) 12～13 学内実習 (体位変換・ボディメカニクス) (高野・小俣) 14～15 自立に向けた移動の介護 (移乗介助) (高野) 16 *デモンストレーション (高野・小俣) 17～18 学内実習 (移乗介助) (高野・小俣) 19～20 自立に向けた移動の介護 (移動介助：杖歩行・車椅子介助) (高野) 21 *デモンストレーション (高野・小俣) 22～23 学内実習 (移動介助：杖歩行・車椅子介助) (高野・小俣) 24～25 安楽な介護 (安楽・睡眠) (堀内 久子) 26 *デモンストレーション (安楽な体位) (堀内・高野) 27～28 学内実習 (安楽な体位・シーツ交換) (堀内・高野) 29～30 前期実技試験 (高野・小俣)			
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座第 6・7 巻 「生活支援技術 I・II」中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物 授業態度	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名)  生活支援技術Ⅱ	授業の種類  (講義・演習・実習)		授業担当者 雨宮 恵子 雨宮 邦子 野呂瀬朋子 高野 享子 小俣登喜子 堀内久子
授業の回数 46回	時間数 92時間	配当学年・時期 1年次・前期 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>尊厳と自立・自律した生活を支える生活支援技術を理解し、「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用して、ICF の概念に基づいたアセスメントを行い福祉用具の活用し、個々の利用者の生活の違いや変化をもとに適切な生活支援や自立に向けた食事の介護、自立に向けた家事の介護、自立に向けた排泄の介護の技術を学ぶ。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>尊厳と自立・自律した生活を支える生活支援技術を理解し、「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用して、ICF の概念に基づいたアセスメントを行い福祉用具の活用し、個々の利用者の生活の違いや変化をもとに適切な生活支援や自立に向けた食事の介護、自立に向けた家事の介護、自立に向けた排泄の介護の技術を身につける。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1～8 <u>自立に向けた栄養・食事の介護</u> (雨宮恵子) 生活と食事身体機能と栄養 カロリー計算食事形態 治療食の理解</p> <p>9～11 <u>自立に向けた食事の介護</u> 食事に関する利用者のアセスメント (小俣)</p> <p>12 *デモンストレーション (小俣・高野)</p> <p>13・14 学内実習 (食事介助) (小俣・高野)</p> <p>15～22 <u>自立に向けた家事の介護</u> 調理の基本 利用者の状態・状況に応じた調理(野呂瀬朋子)</p> <p>23～30 <u>自立に向けた家事の介護</u> (被服・雨宮邦子) 家事の意義と目的 家事に関する基礎知識 (洗濯・掃除・ごみ捨て・裁縫)</p> <p>31～37 <u>自立に向けた排泄の介護</u> (高野) 排泄に関する利用者のアセスメント 気持ちよい排泄を支える心身の状態・状況に応じた介護</p> <p>38 *デモンストレーション (高野・小俣) (ポータブルトイレ・採尿器・差し込み便器)</p> <p>39～40 学内実習 (高野・小俣)</p> <p>41 *デモンストレーション (陰部洗浄・おむつ交換) (高野・小俣)</p> <p>42～43 学内実習 (高野・小俣)</p> <p>44 *デモンストレーション (高野・小俣) (留置カテーテル・ストーマ)</p> <p>45～46 学内実習 (高野・小俣)</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>新・介護福祉士養成講座第6・7巻 「生活支援技術」中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物 授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術Ⅲ	授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 高野 享子 堀内久子 小俣登喜子 (実務 介護福祉士)
授業の回数 40回	時間数 80時間	配当学年・時期 1年次後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <p>尊厳と自立・自律した生活を支える生活支援技術を理解し、「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用して、ICF の概念に基づいたアセスメントを行い福祉用具の活用し、個々の活動の違いや変化をもとに適切な生活支援や自立に向けた身支度の介護、自立に向けた清潔保持・入浴の介護、終末期の介護および、緊急・災害時の介護の技術を学ぶ。</p> <p><b>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</b></p> <p>尊厳と自立・自律した生活を支える生活支援技術を理解し、「こころとからだのしくみ」で学んだ知識を応用して、ICF の概念に基づいたアセスメントを行い福祉用具の活用し、個々の生活の違いや変化をもとに適切な生活支援や自立に向けた身支度の介護、自立に向けた清潔保持・入浴の介護、終末期の介護及び、緊急・災害時の介護の技術を身につける。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>1～2 自立に向けた身支度の介護【整容・口腔ケア】(小俣)</p> <p>3 *デモンストレーション(小俣・高野) 4～5 学内実習(小俣・高野)</p> <p>6～7 自立に向けた身支度の介護【衣服着脱】(小俣)</p> <p>8 *デモンストレーション(・高野) 9～10 学内実習(小俣・高野)</p> <p>11 自立に向けた入浴・清潔保持の介護【手浴・足浴】(小俣・高野)</p> <p>12 *デモンストレーション(・高野) 13～14 学内実習(小俣・高野)</p> <p>15 自立に向けた入浴・清潔保持の介護【洗髪】(小俣・高野)</p> <p>16 *デモンストレーション(小俣・高野)</p> <p>17～18 学内実習(小俣・高野)</p> <p>19 自立に向けた入浴・清潔保持の介護【清拭】(小俣・高野)</p> <p>20 *デモンストレーション(小俣・高野)</p> <p>21～22 学内実習(小俣・高野)</p> <p>23 自立に向けた入浴・清潔保持の介護【シャワー浴・入浴】(小俣)</p> <p>24 *デモンストレーション(小俣・高野)</p> <p>25～28 学内実習(小俣・高野)</p> <p>29～31 終末期の介護【褥瘡】(堀内)</p> <p>32 *デモンストレーション(堀内) 33～34 学内実習(堀内・高野)</p> <p>35～36 緊急・災害時の介護(堀内) 37～38 *学内演習(堀内・高野)</p> <p style="text-align: center;">※後期実技試験(高野・小俣) 39～40 生活支援技術Ⅱの技術含む</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>新・介護福祉士養成講座第7巻                  「生活支援技術Ⅱ」中央法規出版</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>(試験やレポートの評価基準など)                  定期試験、提出物 授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術ⅣA	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 前田文 塩澤紀子・三井たかね (実務 看護師)	
授業の回数 24回	時間数 48時間	配当学年・時期 1年次・後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識を習得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <p>生活行為を成立させる技術として、原理・法則性に基づいた技術を習得し、その上で固有の障害に対する応用技術、生活の基本である技術 (生活支援、自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた身支度の介護、自立に向けた移動の介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護、自立に向けた家事の介護、自立に向けた睡眠の介護、終末期の介護) を学ぶ。</p> <p><b>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</b></p> <p>生活行為を成立させる技術として、原理・法則性に基づいた技術を習得し、その上で固有の障害に対する応用技術、生活の基本である技術 (生活支援、自立に向けた居住環境の整備、自立に向けた身支度の介護、自立に向けた移動の介護、自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護、自立に向けた排泄の介護、自立に向けた家事の介護、自立に向けた睡眠の介護、終末期の介護) を身につける。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <p>1～3 視覚障害に応じた介護 (塩澤紀子)                  生活の理解 アセスメント 感覚機能が低下している人の介助の留意点 コミュニケーション</p> <p>4～6 聴覚・言語障害に応じた介護 (塩澤紀子)                  生活の理解 アセスメント 感覚機能が低下している人の介助の留意点 コミュニケーション</p> <p>7～8 運動機能障害に応じた介護 (塩澤紀子)                  生活の理解 アセスメント 運動機能が低下している人の介助の留意点 コミュニケーション</p> <p>9～11 知的障害に応じた介護 (三井たかね)                  生活の理解 アセスメント 認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点 コミュニケーション</p> <p>12～14 発達障害に応じた介護 (三井たかね)                  生活の理解 アセスメント 認知・知覚機能が低下している人の介助の留意点 コミュニケーション</p> <p>15～16 重複障害に応じた介護 (三井たかね)                  生活の理解 アセスメント 重複障害者の介助の留意点 コミュニケーション</p> <p>17～21 精神障害に応じた介護 (前田 文)                  精神障害者の基礎知識 生活の理解 アセスメント目標設定 家事支援と環境整備</p> <p>22～24 事例演習 (前田 文)</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>・「新版介護福祉士養成講座 第8巻                  生活支援技術」中央法規出版</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>(試験やレポートの評価基準など)                  定期試験、提出物 授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術IVB	授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 塩澤紀子・山本浩美 (実務 看護師)
授業の回数 16回	時間数 32 時間	配当学年・時期 2年次 前期 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>障害があってもこれまでの生活が継続できるように、現在の状況を理解し、潜在能力を引き出し、自立を目指す介護が実践できるための基礎的能力を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>認知症・高次機能障害・内部障害をもたらす疾病・症状・特徴を理解し、障害のある人の生活を支援する具体的方法を学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>認知症・高次機能障害を抱えて生活する利用者の生活状況をアセスメントし、他職種と協働して生活支援ができる知識・技術を習得する。</p> <p>内部障害(心臓・呼吸・腎臓・肝臓・膀胱・直腸・免疫機能障害)を抱えて生活する利用者の生活状況をアセスメントし、他職種と協働して生活支援ができる知識・技術を習得する。</p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>1～8 認知症のある人に応じた介護、高次脳機能障害に応じた介護 )                  生活の理解 アセスメント 機能が低下している人の介助の留意点・コミュニケーション  <span style="float: right;">(山本浩美)</span></p> <p>9 授業の概要 (内部障害の定義と理解) <span style="float: right;">(塩澤紀子)</span></p> <p>10 内部障害 (心臓機能障害)に応じた介護と生活支援技術</p> <p>11 内部障害 (呼吸器機能障害)に応じた介護と生活支援技術</p> <p>12 内部障害 (腎臓機能障害)に応じた介護と生活支援技術</p> <p>13 内部障害 (膀胱・直腸機能障害)に応じた介護と生活支援技術</p> <p>14 内部障害 (肝臓機能障害)に応じた介護と生活支援</p> <p>15 内部障害 (ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害)に応じた介護と生活支援</p> <p>16 内部障害 (小腸機能障害)に応じた介護と生活支援技術                  (IVH・胃瘻・経管栄養)の生活支援</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>・「新版介護福祉士養成講座 第8巻                  生活支援技術」中央法規出版</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など)                  定期試験、提出物 授業態度</p>	



## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程 I		授業の種類 (講義) 演習・実習)		授業担当者 高野 享子 ・ (実務 介護福祉士)
授業の回数 30 回	時間数 60 時間	配当学年・時期 1 年次	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護過程を個々の介護ニーズを的確に把握し、計画的に介護を実践・評価して<u>介護過程の展開</u>が科学的な問題解決法であることを理解する。また、領域「人間と社会」や「こころとからだのしくみ」で学んだ人間や社会を理解する視点から利用者の立場に近づき、求められる支援を提供するという介護の専門性を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と障害を ICF の観点から理解し、個々の介護ニーズを的確に把握し、自立支援に向けて個別的な介護を計画的に実践・評価していく<u>介護過程の展開</u>を学ぶ。また、介護過程は常に流動的であり、支援する場面や環境に柔軟に対応したケアを提供するものであることを学ぶ。</li> <li>・利用者の自立生活や尊厳を尊重した介護援助のあり方を学ぶ。</li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p><u>介護過程の展開</u>のために、個々の介護ニーズを的確に把握し、自立支援に向けて個別的な介護を科学的思考に基づき、計画的に実践・評価できる能力を身につける。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 授業の概要と学ぶ上での留意事項</li> <li>2 <u>介護過程とは</u> <u>介護過程の意義・目的</u> <u>介護過程の構成要素</u> ケアプランとの相違</li> <li>3 <u>介護過程の展開</u> (ニーズとは)</li> <li>4 人と障害のとらえ方 (人と健康 人と環境 人と発達 ICF モデル)</li> <li>5 人と障害のとらえ方 (人と健康 人と環境 人と発達 ICF モデル)</li> <li>6～15 <u>介護過程の展開</u> アセスメント (情報収集 観察 分析)</li> <li>16～20 <u>介護過程の展開</u> 情報の統合と関連 課題抽出 介護計画—生活上の課題 (優先順位) 目標 介護内容 (介護の実施)</li> <li>21～27 <u>介護過程の展開</u> 評価</li> <li>28～29 事例演習(利用者の状況に応じた展開 自立に向けた展開)</li> <li>30 まとめ</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
新・介護福祉士養成講座第9巻 「介護過程」中央法規出版		(試験やレポートの評価基準など)  定期試験、提出物、授業態度		

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 高野 享子 (実務 介護福祉士)
授業の回数 30回	時間数 60時間	配当学年・時期 2年次	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護過程を継続した生活の一場面としてとらえることを踏まえて、介護過程の展開が「情報収集→アセスメント→計画→実施→評価・修正」の連続であること、それぞれの段階で支援者として果たすべき役割を理解し、<u>介護過程の実践的展開</u>を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>利用者本人が望む生活に向け、個別性や障害の程度に合わせて安全に介護を提供する必要性を理解し、<u>介護過程の実践的展開</u>のあり方を様々な事例を通して学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>利用者本人が望む生活に向け、個別性や障害の程度に合わせて安全に介護を提供する必要性を理解し、<u>介護過程の実践的展開</u>の能力を様々な事例を通して身につける。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1～3 オリエンテーション 授業の概要と学ぶ上での留意事項 <u>介護過程の実践的展開</u>（自立に向けた展開 利用者の状況に応じた展開） 事例演習 情報収集・疾患の理解・アセスメント</p> <p>4～6 統合・課題抽出</p> <p>7 介護計画立案</p> <p>8～9 企画書作成</p> <p>10～12 ロールプレイング（介護実践） 評価</p> <p>13～15 事例演習</p> <p>16～18 情報収集・疾患の理解・アセスメント</p> <p>19～20 統合・課題抽出</p> <p>21～24 介護計画立案 モニタリング 再計画（ロールプレイング）</p> <p>25～29 情報収集・疾患の理解・アセスメント・統合・課題抽出・介護計画立案</p> <p>30 まとめ</p>				
[使用テキスト・参考文献] 新・介護福祉士養成講座第9巻 「介護過程」中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、出欠席	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程Ⅲ		授業の種類 ( 講義 ) ・ 演習 ・ 実習		授業担当者 原藤 愛
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 2 年次・後期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>利用者の多様なニーズに答えるために、<u>介護過程におけるチームアプローチ</u>の重要性と介護福祉士として求められる専門性を理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護福祉士として求められる専門性を理解し、利用者の多様なニーズに答えるために、チームの一員としてカンファレンスの意義・目的を理解し、多職種との連携のあり方を学ぶ。<u>介護過程におけるチームアプローチ</u>について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>利用者の多様なニーズに答えるために、<u>介護過程におけるチームアプローチ</u>の重要性と介護福祉士として求められる専門性を理解し、その能力を身につける。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション 授業の概要と学ぶ上での留意事項</li> <li>2 介護福祉士としての専門性</li> <li>3 専門職間の連携、チームワークの重要性</li> <li>4 ケアワークとソーシャルワーク</li> <li>5 ノーマライゼーション</li> <li>6 バイスティックの7原則</li> <li>7 個別援助技術</li> <li>8 集団援助技術の展開過程</li> <li>9 介護保険下でのケアマネジメントと介護過程</li> <li>10 <u>介護過程とチームアプローチ</u>（ケースカンファレンス）</li> <li>11 <u>介護過程とチームアプローチ</u>（サービス担当者会議）</li> <li>12 <u>介護過程とチームアプローチ</u>（他職種との連携）</li> <li>13 事例演習</li> <li>14 事例演習</li> <li>15 まとめ</li> </ol>				
使用テキスト・参考文献  新・介護福祉士養成講座第9巻 「介護過程」中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など）  定期試験、提出物、出欠席	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 実習指導 I	授業の種類 (講義)・演習・実習	授業担当者 高野享子(実務介護福祉士) 山本浩美(実務看護師)	
授業の回数 23回	時間数 46時間	配当学年・時期 1年次・前期 後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <u>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、能力等について個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。</u>			
[授業全体の内容の概要] 介護実習の意義・目的、施設の機能・役割・特徴、介護業務、施設利用者を理解し、実習への心構えと事前学習について学ぶ。基本的な生活援助技術について学ぶ。また、他職種との連携方法や施設運営及びサービス全般について学ぶ。 <u>実習との組み合わせての学習とする。</u>			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] <u>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、能力等を身につける。</u>			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1            I-1 実習オリエンテーション (実習の意義 目的 実習方法 実習の心得)			
2・3 <u>介護技術の確認、施設等のオリエンテーション</u>			
4            コミュニケーション技術 反省 記録の書き方			
5            施設実習に対する自己目標 評価について			
6            直前指導			
7～9        介護実習まとめ (報告書作成)			
10・11      学内報告会			
12           報告書修正			
13・14     I-2 実習オリエンテーション (実習の意義 目的 実習方法 実習の心得)			
<u>介護技術の確認、施設等のオリエンテーション</u>			
コミュニケーション技術 反省 記録の書き方			
15～17     施設実習に対する自己目標 評価について			
介護技術について カンファレンスについて			
良好な関係構築するためのコミュニケーション プロセスレコードについて			
受け持ち利用者の理解 <u>介護過程の展開等の能力について個別到達状況に応じた学習情報収集・アセスメント・統合・課題について</u>			
18           直前指導			
19～21     介護実習まとめ (報告書作成)			
22・23     学内報告会			
[使用テキスト・参考文献] 「最新介護福祉全書(8) 介護総合演習」 メヂカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席時間、提出物、授業態度	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 実習指導Ⅱ	授業の種類 ( <u>講義</u> ・演習・実習)		授業担当者 山本浩美(実務 看護師) 高野享子(実務 介護福祉士)
授業の回数 22回	時間数 44時間	配当学年・時期 2年次・前期 後期	必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p><u>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開等の能力について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。また、地域における様々な場において対象者の生活を理解し、本人の望む生活の実現に向け、多職種と連携し介護過程の展開が実践できる。</u></p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>利用者の生活全般を理解し、<u>個別の介護過程の展開方法を学び、チームケアでの役割を学ぶ。</u></p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p><u>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開等の能力を身につける。</u></p>			
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 I-2 介護実習振り返り II-1 実習オリエンテーション (実習の意義 目的 実習方法 実習の心得)</p> <p>2~4 <u>介護技術の確認、施設等のオリエンテーション・受け持ち利用者の理解</u> コミュニケーション技術 記録の書き方・実習に対する自己目標 評価について <u>介護過程の展開等の能力について個別到達状況に応じた学習</u></p> <p>5 直前指導</p> <p>6~ 8 介護実習Ⅱ-1 まとめ (報告書作成)</p> <p>9 学内報告会</p> <p>10 II-2 実習オリエンテーション (実習の意義 目的 実習方法 実習の心得)</p> <p>11~14 <u>介護技術の確認、施設等のオリエンテーション・受け持ち利用者の理解、施設実習に対する自己目標、評価について</u> <u>介護過程の展開等の能力について個別到達状況に応じた学習</u> 事例研究 事前学習</p> <p>15 実習直前の指導</p> <p>16~18 事例研究まとめ</p> <p>19~21 II-3 実習オリエンテーション (実習の意義 目的 実習方法 実習の心得) <u>介護技術の確認、施設等のオリエンテーション・受け持ち利用者の理解、施設実習に対する自己目標、評価について</u> <u>介護過程の展開等の能力について個別到達状況に応じた学習</u></p> <p>22 直前指導</p>			
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「最新介護福祉全書(8) 介護総合演習」 メヂカルフレンド社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>(試験やレポートの評価基準など) 出席時間、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 事例研究	授業の種類 (講義・演習・実習)		授業担当者 塩澤紀子 山本浩美 (実務 看護師) 高野享子(実務介護福祉士)
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年次・後期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] <u>実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告会など、実習に必要な知識や技術、介護過程の展開等の能力について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。</u> また、事例研究を通して介護観を培う。			
[授業全体の内容の概要] 介護実習を通して利用者の理解を深め利用者の生活全般を理解し、 <u>個別の介護過程の展開</u> と総合的対応能力を習得する。事例研究のまとめ方を理解し、介護観の形成の意義・必要性について学ぶ。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護実習を通して利用者の理解を深め利用者の生活全般を理解し、 <u>個別の介護過程の展開</u> と総合的対応能力を習得する。事例研究のまとめ方を理解し、介護観を培う。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1 研究とは 介護福祉士にとっての研究の必要性・意義 研究の目的・方法・倫理的配慮 研究デザイン			
2 ケース・スタディとは、 事例研究の進め方			
3 文献検索の方法 文献の活用法			
4・5 研究計画書の作成・タイムスケジュールの立て方			
6・7 文献検索 テーマの決定 (塩澤・山本・高野)			
8 事例研究執筆要項の説明 (塩澤・山本・高野) ( <u>介護過程の展開</u> を通してのケース・スタディの方法)			
9・10 卒業論文の執筆 (塩澤・山本・高野)			
11～14 事例研究の発表 (塩澤・山本・高野)			
15 まとめ			
		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 出席時間、提出物、授業態度、発表	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護実習 I	授業の種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <b>実習</b> )		授業担当者 高野 享子 (実務介護福祉士) 山本 浩美 (実務 看護師)
授業の回数	時間数 160 時間	配当学年・時期 1 年次・前期 後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p><u>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する。</u></p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを学ぶ。</u></li> <li>・ <u>利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認をする。</u></li> <li>・ <u>他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について学ぶ。</u></li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題 (到達目標) ]</b></p> <p><u>実践を通じて、各領域で習得した知識と技術、態度を身につける。個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、他職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解し、自らの介護観を培う。</u></p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>1 施設実習 I - 1 (見学実習 6 月 6 日間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解する。</u></li> <li style="padding-left: 20px;">(小規模多機能型居宅介護事業所、認知症対応型老人共同生活援助事業所等の見学)</li> <li>・ <u>多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について。</u></li> </ul> <p>2 施設実習 I - 2 (1 1 月 1 4 日間)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 個々の日常生活の理解</li> <li>・ <u>利用者・家族とのコミュニケーションの実践</u></li> <li>・ <u>利用者の情報収集・アセスメントから課題を明確にする。</u></li> <li>・ <u>介護技術の確認</u></li> <li>・ <u>多職種協働や関係機関との連携</u></li> <li style="padding-left: 20px;">(介護老人福祉施設、介護老人保健施設および障害者支援施設)</li> </ul>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習要綱</li> <li>・ オリエンテーション資料</li> </ul>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>出席時間、事前学習、実習態度 実習施設からの成績評価と巡回指導における状況等による総合評価</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護実習Ⅱ	授業の種類 ( 講義 ・ 演習 ・ <b>実習</b> )		授業担当者 高野享子(実務介護福祉士) 山本浩美(実務 看護師)
授業の回数	時間数 320 時間	配当学年・時期 2 年次・前期 後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人の望む生活の実現に向け、多職種と連携し、介護過程の展開が実践できる。また、<u>他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する。</u></p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性について学ぶ。</u></li> <li>・ <u>利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の展開について学ぶ。</u></li> <li>・ <u>既習学習内容を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を学ぶ。</u></li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <p><u>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。</u></p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>1 施設実習Ⅱ－1（5～6月 16日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性の理解</u></li> <li>・ <u>本人の望む生活の実現に向けた介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の展開</u></li> <li>・ <u>他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の実践</u> (介護老人福祉施設、介護老人保健施設および身体者支援施設)</li> </ul> <p>2 施設実習Ⅱ－2（10～11月 20日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性の理解</u></li> <li>・ <u>本人の望む生活の実現に向けた介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程の展開</u></li> <li>・ <u>他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の実践</u> (介護老人福祉施設、介護老人保健施設および障害者支援施設)</li> </ul> <p>3 訪問実習Ⅱ－3（9月～11月 4日間）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>地域における様々な場において、対象者の生活を理解。</u></li> <li>・ <u>利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価。</u></li> <li>・ <u>本人の望む生活の実現に向け、多職種と連携した介護過程の展開。</u></li> </ul> <p>*この事例の<u>介護過程の展開</u>を通して事例研究を実施する。</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実習要綱</li> <li>・ オリエンテーション資料</li> </ul>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>出席時間、事前学習、実習態度 実習施設からの成績評価と巡回指導における状況等による総合評価</p>	



## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解 I		授業の種類 （講義・演習） 実習		授業担当者 山本浩美 （実務 看護師）
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次・後期	必修・選択 必修	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>認知症のある人の生活を、「尊厳を保持する日常生活支援」「生活環境の調整」、「多職種や他機関と連携」し支えるという観点から、心理や身体的機能等を学び、認知症ケアを理解するための基礎知識を修得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>認知症の歴史や国の背策について学ぶ</u></li> <li>・ <u>認知症の症状・診断・治療・予防について学ぶ</u></li> <li>・ <u>障害をかかえて生きることへの支援について学ぶ</u></li> <li>・ <u>認知症ケアの方向性について学ぶ</u></li> <li>・ <u>介護者支援について学ぶ</u></li> <li>・ <u>認知症の人の地域生活支援について学ぶ</u></li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①認知症ケアの歴史や、認知症に関する国の方針と施策について理解できる。</li> <li>②認知症の定義・診断基準、四大認知症の原因疾患と症状、ケアの方向性について理解できる。</li> <li>③認知機能障害と行動心理症状（BPSD）について説明できる。</li> <li>④認知症のスクリーニングテスト、「認知症高齢者の日常生活自立度判定基準」について理解できる。</li> <li>⑤薬物療法と非薬物療法の概要について理解できる。</li> <li>⑥認知症ケアの理念、パーソン・センタード・ケアの視点、本人の強みを生かしたケアが理解できる</li> </ol> <p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション</li> <li>2 認知症の基礎的理解①－認知症とは何か、脳のしくみ、認知症の人の心理</li> <li>3 認知症の症状・診断・治療・予防①－中核症状、生活障害、BPSD、診断と重症度</li> <li>4 認知症の症状・診断・治療・予防②－原因疾患と症状、治療、予防</li> <li>5 障害をかかえて生きることへの支援①－認知症を取り巻く現状</li> <li>6 障害をかかえて生きることへの支援②－認知症ケアの理念と視点、認知症当事者の視点</li> <li>7 認知症ケアの実際①－パーソン・センタード・ケア</li> <li>9 認知症ケアの実際②－認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメントツール</li> <li>10 認知症ケアの実際③－コミュニケーションとケア</li> <li>11 認知症ケアの実際④－認知症の人へのさまざまなアプローチ i</li> <li>12 認知症ケアの実際⑤－認知症の人へのさまざまなアプローチ ii</li> <li>13 認知症ケアの実際⑥－終末期医療と介護、環境づくり</li> <li>14 介護者支援</li> <li>15 認知症の人の地域生活支援</li> </ol>				
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>最新・介護福祉士養成講座 第13巻                  「認知症の理解」 中央法規出版</p>			<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>（試験やレポートの評価基準など）                  定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 （講義・演習・実習）		授業担当者 山本浩美 （実務 看護師）	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年次・前期		必修・選択 必修	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>「認知症の理解Ⅰ」の内容を踏まえ、本科目では、<u>認知症に伴う心と体の変化と日常生活</u>について事例を通して学習する。認知症の人の生活の場は、在宅・グループホーム・老人福祉施設等多様である。認知症の人への生活支援の基本は共通しているものの、<u>生活の場の特性</u>に応じた介護を修得する。また、地域における連携および協働や、本人のみならず家族を含めた周囲の環境も配慮した介護の視点を修得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>認知症に伴う心の変化と日常生活</u>について学ぶ</li> <li>・ <u>認知症の人の生活の場に応じた具体的な介護</u>について学ぶ</li> <li>・ <u>連携と協働</u>について学ぶ</li> <li>・ <u>家族への支援</u>について学ぶ</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <p>認知症の症状が及ぼす心の変化、生活面への影響、支える家族の心の変化や生活面への影響について、その支援の在り方を思考できる知識を修得し、説明できる。また、地域社会や社会制度など、環境への働きかけの重要性を理解し、「生活支援技術」に結びつけることができる。</p> <p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー本科目の目的と概要および「認知症の理解Ⅰ」の復習</li> <li>2 <u>認知症に伴う心の変化と日常生活①</u>ー認知症への気づきとかわり</li> <li>3 <u>認知症に伴う心の変化と日常生活②</u>ー初期の認知症への介護（事例）</li> <li>4 <u>認知症に伴う心の変化と日常生活③</u>ー中期の認知症への介護（事例）</li> <li>5 <u>認知症に伴う心の変化と日常生活④</u>ー後期の認知症への介護（事例）</li> <li>6 認知症の人に適した生活環境と支援体制</li> <li>7 在宅で生活する認知症の人とその家族の支援</li> <li>8 グループホームで生活する認知症の人の介護</li> <li>9 介護老人福祉施設に入所している認知症の人の介護</li> <li>10 <u>連携と協働①</u>ー地域におけるサポート体制</li> <li>11 <u>連携と協働②</u>ーチームアプローチ</li> <li>12 <u>家族への支援①</u>ー家族へのレスパイトケア</li> <li>13 <u>家族への支援②</u>ー家族のエンパワメント</li> <li>14 認知症に関する制度・関係機関</li> <li>15 認知症の人へのケアと権利擁護</li> </ol>					
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>最新 介護福祉士養成講座 （第13巻）                  「認知症の理解」 中央法規出版</p>			<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>（試験やレポートの評価基準など）                  定期試験、提出物、授業態度</p>		

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解 I		授業の種類 (講義) 演習・実習)		授業担当者 出 沢 秀 子 (実務 看護師)
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 1 年次・前期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人間の成長と発達についての<u>基礎的理解</u>ができ、老化に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>人間の成長と発達の基礎的理解</u> (乳幼児・児童・青年・成年期) を自己の体験や身近な人から具体的なイメージを持つ。</li> <li>・ 成長の段階で発達課題の内容</li> <li>・ <u>老年期の発達と成熟</u></li> <li>・ 高齢者の尊厳を守る</li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>人間の成長と発達の観点から、高齢期の心理の特徴を理解し、他の発達段階との相違や尊厳の守り方について考えられるようになる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1~2 オリエンテーションー本科目のねらいと概要</p> <p style="padding-left: 2em;"><u>人間の成長・発達の基礎的理解</u>ー成長・発達をどうとらえるか</p> <p>3 <u>人間の成長・発達の基礎的理解</u>ーライフサイクルと発達課題</p> <p>4 <u>老年期の発達と成熟①</u>ー社会から見た老年期</p> <p>5 <u>老年期の発達と成熟②</u>ーライフサイクルのなかの老年期</p> <p>6 <u>老年期の発達と成熟③</u>ー社会から見た老年期</p> <p>7 <u>老年期の発達と成熟④</u>ー老化がおよぼす心理的影響</p> <p>8 <u>老年期の発達と成熟⑤</u>ー老いの価値観・受容</p> <p>9 <u>老年期の発達と成熟⑥</u>ーセクシュアリティ</p> <p>10 高齢者の尊厳を守るためには</p> <p>11 <u>人間の成長・発達の基礎的理解</u>ーライフサイクルとファミリーサイクル</p> <p>12 <u>人間の成長・発達の基礎的理解</u>ー乳幼児期のころとからだ</p> <p>13 <u>人間の成長・発達の基礎的理解</u>ー児童期のころとからだ</p> <p>14 <u>人間の成長・発達の基礎的理解</u>ー青年期のころとからだ</p> <p>15 <u>人間の成長・発達の基礎的理解</u>ー成年期のころとからだ</p>				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
欄香代子・高橋・山谷編「新・介護福祉士養成講座 11 巻 発達と老化の理解」 中央法規出版		(試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、授業態度		

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 発達と老化の理解Ⅱ	授業の種類 （講義・演習・実習）	授業担当者 出 沢 秀 子 （実務 看護師）	
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 2 年次・前後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響や、高齢者に多い疾病・生活上の留意点などを学び、生活支援技術の根拠となる知識の修得を図る。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ <u>老化に伴うこころとからだの変化と日常生活</u></li> <li>・ <u>高齢者と健康</u></li> <li>・ <u>保健医療職との連携</u></li> <li>・ 高齢者の生きがい</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <p>高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し、生活支援技術の根拠となる知識を習得する。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー本科目の概要と目的</li> <li>2 <u>老化に伴うこころとからだの変化と日常生活①</u>ー身体的機能の老化の特徴</li> <li>3 <u>老化に伴うこころとからだの変化と日常生活②</u>ー知的機能の老化の特徴</li> <li>4 <u>老化に伴うこころとからだの変化と日常生活③</u>ー認知機能の老化の特徴</li> <li>5 <u>老化に伴うこころとからだの変化と日常生活④</u>ー精神的機能の老化の特徴</li> <li>6 <u>老化に伴うこころとからだの変化と日常生活⑤</u>ー日常生活への影響</li> <li>7 <u>老化に伴うこころとからだの変化と日常生活⑥</u>ー心身機能の老化を遅らせるのに何が効果的か</li> <li>8 <u>高齢者と健康①</u>ー高齢者の心理</li> <li>9 <u>高齢者と健康②</u>ー高齢者に多い疾病と症状</li> <li>10 <u>高齢者と健康③</u>ー高齢者の症状の現れ方の特徴</li> <li>11 <u>高齢者と健康④</u>ー高齢者とのかかわりかた</li> <li>12 <u>高齢者と健康⑤</u>ー保健医療職との連携</li> <li>13 <u>高齢者と健康⑥</u>ー体力づくり・適度な運動の効果</li> <li>14 <u>高齢者と健康⑦</u>ー高齢者の生きがい・社会的ネットワーク</li> <li>15 本講義のまとめ</li> </ol>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>欄香代子・高橋・山谷編「新・介護福祉士養成講座 11 巻 発達と老化の理解」 中央法規出版</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>（試験やレポートの評価基準など）</p> <p>定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解 I	授業の種類 （講義、演習・実習）	授業担当者 古屋 義博	
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 1 年次・後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>障害の基礎的理解として、障害を持つ人の生活支援の「根拠」となる基礎知識を学び、障害のある人の体験を理解し、自立に向けた支援を行うために、地域におけるサポート体制や多職種協働のありかた、家族への支援の在り方を学ぶ。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害者の基礎的理解 / 障害の概念・障害者福祉の基本理念</li> <li>・ 障害の医学的側面の基礎的知識</li> <li>・ 障害のある人の心理</li> <li>・ 障害者介護における<u>連携と協働</u></li> <li>・ <u>家族への支援</u></li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <p>障害の概念、<u>障害者福祉の基本理念</u>を習得する。また、障害の知識及び具体的な症状とその背景要因を知り、自立に向けてどのような介護が望まれるのか考えられるようになる。</p> <p>障害者福祉におけるサポート体制を理解し、本人のみならず<u>家族への支援</u>の視点、障害者介護においてチームとして<u>連携と協働</u>の視点が持てるようになる</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー本科目の概要と目的</li> <li>2 <u>障害の基礎的理解(1)ICIDH の貢献と限界</u></li> <li>3 <u>障害の基礎的理解(2)ICF の価値</u></li> <li>4 <u>障害のある人の介護の基本的な視点(1)自己決定や権利擁護</u></li> <li>5 <u>障害のある人の介護の基本的な視点(2)世界的な潮流</u></li> <li>6 <u>内部障害に関する医学的側面の基礎的知識</u></li> <li>7 <u>内部障害のある人の心理社会的なケア</u></li> <li>8 <u>肢体不自由に関する医学的側面の基礎知識</u></li> <li>9 <u>肢体不自由のある人の心理社会的なケア</u></li> <li>10 <u>視覚障害・聴覚障害に関する医学的側面の基礎知識</u></li> <li>11 <u>視覚障害・聴覚障害のある人の心理社会的なケア</u></li> <li>12 <u>言語障害に関する医学的側面の基礎知識</u></li> <li>13 <u>言語障害のある人の心理社会的なケア</u></li> <li>14 <u>障害者福祉に関する現状の分析</u></li> <li>15 <u>障害者福祉に関する課題の抽出</u></li> </ol>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>谷口敏代編                  「最新介護福祉全書 第11巻 障害の理解」                  メヂカルフレンド社</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>（試験やレポートの評価基準など）                  定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 障害の理解Ⅱ		授業の種類 （講義） 演習・実習		授業担当者 古屋 義博
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年次・前期	必修・選択 必修	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>「障害の理解Ⅰ」をもとに、障害に伴う機能の変化と日常生活への影響を学び、障害のある人の特性を踏まえたアセスメントを行い、障害のある人を地域で自立に向けてどのような介護をするのか「生活支援技術」と関連させて理解できるようになる。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 障害のある人に対する介護の基本的視点</li> <li>・ <u>家族への支援</u></li> <li>・ <u>他職種との連携と協働</u></li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <p>障害のある人が地域で安心して暮らしていけるように、ニーズ把握やアセスメントを行い、利用者の意欲や主体的な行動を支え、地域・他職種と<u>連携</u>し、本人のみならず家族・環境に配慮した介護の視点を習得する。</p>				
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーションー本科目の概要と目的</li> <li>2 知的障害に関する医学的側面の基礎知識</li> <li>3 知的障害のある人の心理社会的なケア</li> <li>4 発達障害に関する医学的側面の基礎知識</li> <li>5 発達障害のある人の心理社会的なケア</li> <li>6 精神障害・高次脳機能障害に関する医学的側面の基礎知識</li> <li>7 精神障害・高次脳機能障害のある人の心理社会的なケア</li> <li>8 全介助および難病に関する医学的側面の基礎知識</li> <li>9 全介助および難病のある人の心理社会的なケア</li> <li>10 心理社会的なケアの計画（plan）と実行（do）の実際</li> <li>11 心理社会的なケアの評価（check）と改善（action）の実際</li> <li>12 連携と協働ー関係機関との連携やチームアプローチ</li> <li>13 連携と協働ー家族への支援</li> <li>14 障害者への心理社会的なケアに関する現状の分析</li> <li>15 障害者への心理社会的なケアに関する課題の抽出</li> </ol>				
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> <p>谷口敏代編                  「最新介護福祉全書 第11巻 障害の理解」                  メヂカルフレンド社</p>			<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> <p>（試験やレポートの評価基準など）                  定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみ I (健康論)	授業の種類 ((講義) 演習・実習)	授業担当者 塩澤 紀子 (実務 看護師)	
授業の回数 8回	時間数 16時間	配当学年・時期 1年次 前期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>                  根拠に基づいた科学的な介護を提供するために、人間の<u>こころとからだのしくみ</u>を理解する。介護の対象である人間の理解を深め、社会や環境が人間の健康に及ぼす影響を理解する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b>                  ・介護技術の根拠となる人体の構造・機能・<u>こころとからだのしくみ</u>を理解する。                  ・介護の対象である人間を環境・社会・健康の概念から理解する。                  ・健康を得るための取り組みについて歴史的視点から概要を理解する。</p> <p><b>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</b>                  介護サービスを提供するうえで必要な<u>からだのしくみ</u>を理解し、健康とは何かを思考できる。                  多様化した介護ニーズに適応できるためには専門的知識が必要であることを理解できる。</p>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <p>1    オリエンテーション    <u>こころとからだのしくみの理解</u>の基礎                  ( 健康の意義と学ぶ必要性 )</p> <p>2    人間と健康    「人間」とは</p> <p>3～4    健康と介護    「健康」とは    「介護」とは                  (健康と疾病    WHO    アルマ・アタ宣言    日本国憲法    ウェルネス)                  (保健医療福祉システム    ヘルスプロモーション    ソーシャルサポート)</p> <p>5    健康と環境    「環境」とは    環境が健康に及ぼす影響</p> <p>6    健康のレベル、目標 (ウェルビーグ    ライフステージ    QOL)</p> <p>7    人権(人間の尊厳)と介護の倫理</p> <p>8    他職種との連携</p>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>                  最新介護福祉全書 第12巻                  「こころとからだのしくみ」                  メヂカルフレンド社</p>		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>                  (試験やレポートの評価基準など)</p> <p>定期試験、提出物、授業態度</p>	

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) ころとからだのしくみⅡ (ころのしくみの理解)	授業の種類 (講義・演習・実習)	授業担当者 山本浩美 (実務 看護師)	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 1年次 前期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>根拠に基づいて科学的な介護を提供するために、人間のころのしくみである人間の欲求の基本的な理解や感情の思考等を理解する。複雑な疾病を重複し、認知症など専門的な知識でもって介護を必要とする高齢者や障害者に適切に対応できる能力を持つ必要性を理解する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護を必要とする人の生活支援をするため、介護実践の根拠となる人間の心理、脳の構造や機能などの基礎知識を学ぶ。</li> <li>・人間の欲求の基本的な理解や感情の思考等を学ぶ。</li> <li>・心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、生活継続に必要な心理・社会的支援について学ぶ。</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①人間の欲求の基本的な理解ができる。</li> <li>②自己概念と尊厳について理解できる。</li> <li>③人間のころの基本的理解と脳の構造や機能、脳ところのしくみの関係性が理解できる。</li> <li>④心身の機能が生活に及ぼす影響について理解し、本人と家族に必要な心理・社会的な支援へ結び付けて考えることができる。</li> </ul>			
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション ころのしくみを理解する必要性</li> <li>2 脳のつくりと働きの理解</li> <li>3 感情、欲求、記憶のしくみ</li> <li>4 思考、判断、創造性のしくみ</li> <li>5 ころについての考え方</li> <li>6 感覚、知覚、認知のしくみ</li> <li>7 動機づけのしくみ (動機づけと欲求)</li> <li>8 感情のしくみ</li> <li>9 自分を守るころのしくみ (1) 防衛機制について</li> <li>10 自分を守るころのしくみ (2) 適応と適応障害について</li> <li>11 ストレス関連障害</li> <li>12 ころの発達</li> <li>13 自己概念について</li> <li>14 ころと脳、生きることの意味について</li> <li>15 まとめ</li> </ol>			
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b></p> 最新介護福祉全書 第12巻 「ころとからだのしくみ」 メヂカルフレンド社		<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b></p> (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、提出物、授業態度	



## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 心とからだのしくみⅢ (からだのしくみの理解)	授業の種類 (講義) 演習・実習	授業担当者 塩澤紀子 (実務 看護師)	
授業の回数 8回	時間数 16時間	配当学年・時期 1年次 前期・後期	必修・選択 必修
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>根拠に基づいた科学的な介護を提供するために、人間の<u>心とからだのしくみ</u>を理解する。疾病を重複し、認知症など専門的な知識を必要とする高齢者や障害者の介護を適切に実施するために必要な知識を習得し、対応できる基礎的能力を養う。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・介護技術の根拠となる人体の構造・機能について学ぶ。</li> <li>・介護サービスを安全に提供する為に心とからだのしくみについて学ぶ。</li> <li>・身体機能が障害された時の介護の必要性を考えるための観察ができる。</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</b></p> <p><u>からだのしくみ</u>を系統的に理解する。介護サービスを安全に提供するための根拠がわかる。観察の視点や方法を理解し、測定できる。他職種と連携し共通理解するための基礎的知識を身につける。</p> <p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 オリエンテーション <u>心とからだのしくみ</u>を理解する必要性                      からの構成 (組織 細胞 (人体の構造と区分 解剖学用語 組織 細胞 )</li> <li>2 <u>からのしくみの理解</u> からだを動かすしくみ (骨格系 筋肉系 神経系)</li> <li>3 <u>からのしくみの理解</u> 生命活動の調節 (恒常性のしくみ 血液・血管系)</li> <li>4 <u>からのしくみの理解</u> 心臓のしくみ (循環器系) 血圧の定義</li> <li>5 <u>からのしくみの理解</u> 呼吸のしくみ (呼吸器系)</li> <li>6 <u>からのしくみの理解</u> 消化・吸収のしくみ、食べるしくみ(嚥下)                      (消化器系 内分泌・ホルモン系)</li> <li>7 <u>からのしくみの理解</u> 排泄のしくみ (腎臓・泌尿器系)                      免疫のしくみ</li> <li>8 <u>からのしくみの理解</u> バイタルサインズ(生命の徴候 )                      (呼吸・体温・血圧・脈拍測定、心音、腸蠕動音、パルスオキシメーター)</li> </ol>			
使用テキスト・参考文献 最新介護福祉全書 第12巻 「心とからだのしくみ」 メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書 別巻1 「医学一般」 メヂカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] (試験やレポートの評価基準など) 定期試験、小テスト 提出物、授業態度	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） ころとからだのしくみⅣ （生活支援に関連した ころとからだのしくみの理解）		授業の種類 （講義） 演習・実習		授業担当者 出 沢 秀 子 （実務 看護師）	
授業の回数 15 回	時間数 30 時間	配当学年・時期 1 年次・前期・後期		必修・選択 必修	
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b></p> <p>根拠に基づいて科学的な介護を提供するために、人間のからだのしくみをただしく理解する。複雑な疾病を重複し、認知症など専門的な知識でもって介護を必要とする高齢者や障害者に適切に対応できる能力の基礎を理解する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <p>・生活支援技術と関連して、<u>身じたくに関連したころとからだのしくみ</u>・<u>移動に関連したころとからだのしくみ</u>、<u>食事に関連したころとからだのしくみ</u>、<u>入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみ</u>、<u>排泄に関連したころとからだのしくみ</u>、<u>睡眠に関連したころとからだのしくみ</u>に関連したころとからだのしくみについて学ぶ。</p> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b></p> <p>介護サービスを提供するうえで安全に、増大している認知症や障害者への心理的社会的ケアが専門的知識をもって多様化した介護ニーズに適応できる能力の基礎知識を身につける。</p>					
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p>コマ数</p> <p>1     オリエンテーション   生活支援に関連したからだのしくみの理解の基礎                  （部位の名称、ボディメカニクス）</p> <p>2     生活支援に関連したからだのしくみの基礎（ 関節の可動域）</p> <p>3     <u>移動に関連したころとからだのしくみ</u>                  （基礎知識 からだのしくみ 移動への影響 生活場面での変化の気づき）</p> <p>4     <u>身じたくに関連したころとからだのしくみ</u>                  （基礎知識 からだのしくみ 整容行動への影響 医療職との連携）</p> <p>5～7 <u>食事に関連したころとからだのしくみ</u>                  （基礎知識 からだのしくみ 食事への影響 生活場面での変化の気づき）</p> <p>8～11 <u>排泄に関連したころとからだのしくみ</u>                  （基礎知識 からだのしくみ 排泄への影響 生活場面での変化の気づき）</p> <p>12・13 <u>入浴・清潔保持に関連したころとからだのしくみ</u>                  （基礎知識 からだのしくみ 清潔への影響 生活場面での変化の気づき）</p> <p>14・15 <u>睡眠に関連したころとからだのしくみ</u>                  （基礎知識 からだのしくみ 睡眠への影響 生活場面での変化の気づき）</p>					
使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉全書 第12巻 「ころとからだのしくみ」 メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書 別巻1「医学一般」 メヂカルフレンド社			[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 定期試験、提出物、出欠席		

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 心とからだのしくみⅤ （死にゆく人の心とからだのしくみ）	授業の種類 講義・演習・実習	授業担当者 塩澤 紀子 （実務 看護師）	
授業の回数 15回	時間数 30時間	配当学年・時期 2年次	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい] ライフステージの延長線上に見取りがあることを理解し、 <u>死にゆく人の心とからだのしくみ</u> を学ぶ。			
[授業全体の内容の概要] ・ <u>死にゆく人の心とからだのしくみ</u> を理解する。終末期における QOL・自己実現・個人の尊厳・自己決定について学ぶ。利用者と家族の状況に合わせた医療との連携のあり方と基礎知識を学ぶ。 ・			
[授業修了時の達成課題（到達目標）] <u>死にゆく人の心とからだのしくみ</u> の理解。終末期の理解。利用者の自己実現と個人の尊厳の理解。終末期における利用者と家族の支援。終末期における医療との連携のあり方と基礎知識。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数			
1      オリエンテーション <u>死にゆく人の心とからだのしくみ</u> の概要と学ぶ上での留意事項			
2・3 <u>死の捉え方</u> （生物的な死　法律的な死　臨床的な死）死の受容			
4・5 <u>尊厳死(リビングウィル)</u> インフォームドコンセントと自己決定			
6～8 <u>終末期から危篤までの介護</u> （心とからだの変化と影響、症状コントロール・コミュニケーション） 「死」の受容「悲嘆のプロセス」「死生観」　本人・家族への介護			
9～11 <u>危篤時から死亡時の介護</u> （本人・家族への介護、身体的変化・バイタルサインの変化・グリーフケア）			
12・13 終末期における多職種との連携			
13・14 ホスピスケア（疼痛緩和　医療職との連携）			
15      まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 最新介護福祉全書 第12巻 「心とからだのしくみ」 メヂカルフレンド社 最新介護福祉全書 別巻1「医学一般」 メヂカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] （試験やレポートの評価基準など） 定期試験、提出物、出欠席	

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケア I		授業の種類 (講義) 演習・実習)		授業担当者 塩澤 紀子・山本浩美 (実務 看護師)
授業回数	時間数 50 時間	配当学年・時期 1 年次 後期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>医療的ケアを安全・安楽かつ効果的に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア実施の基礎を理解する。</li> <li>・喀痰吸引の基礎的知識・実施手順を理解する。</li> <li>・経管栄養の基礎的知識・実施手順を理解する。</li> <li>・急変・事故発生時の対応と事前対策を理解する。</li> </ul> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <p>人間のからだのしくみの基本を理解し、根拠に基づいて科学的な医療的ケアを提供するために必要な知識を理解する。医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・安楽かつ効果的に実施できる技術を理解する。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 医療的ケア実施の基礎—基本的な心構え</li> <li>2 人間と社会—個人の尊厳と自立、医療の倫理・利用者や家族の気持ちの理解</li> <li>3 保険医療制度とチーム医療—保健医療の関する制度、医療行為に関する法律 チーム医療と介護職員との連携</li> <li>4 安全な療養生活—喀痰吸引や経管栄養の安全な実施、救急蘇生法</li> <li>5 感染予防と清潔保持—感染予防、介護職員の感染予防、療養環境の清潔・消毒法 滅菌と消毒</li> <li>6 健康状態の把握—身体・精神の健康、健康状態を知る項目、急変状態について</li> <li>7 高齢者および障害児・者の「喀痰吸引」—呼吸のしくみ、いつもと違う呼吸状態 喀痰吸引とは、喀痰吸引で用いる器具・器材のしくみ、清潔の保持 人工呼吸器と吸引、子どもの吸引、喀痰吸引にともなうケア、 家族の気持ちと対応、説明と同意、呼吸器の感染予防 喀痰吸引により生じる危険、事後の安全確認、急変・事故発生時の対応と 事前対策、報告および記録、喀痰吸引の手順と留意点</li> <li>8 高齢者および障害者・児の「経管栄養」—消化器のしくみと働き、消化器の主な症状 経管栄養とは、改管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持 注入する内容に関する知識、経管栄養実施上の留意点、 子どもの経管栄養について、経管栄養に必要なケア、経管栄養を受ける 利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意、経管栄養の関する感染と予防 経管栄養により生じる危険、注入後の安全確認、急変・事故発生時の対応 と事前対策、報告および記録、経管栄養の実施の手順と留意点</li> </ol>				
[使用テキスト・参考文献] 「医療的ケア」メヂカルフレンド社		[単位認定の方法及び基準] 定期試験（90%以上）、提出物、授業態度		

## 授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 医療的ケアⅡ		授業の種類 ( 講義 ・ <b>演習</b> ) 実習 )		授業担当者 塩澤紀子 ・ 山本浩美 (実務 看護師)													
授業回数	時間数 規定回数以上	配当学年・時期 1年次 後期		必修・選択 必修													
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b>                  医療的ケアを安全・安楽かつ効果的に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療的ケア実施の基礎を理解する。</li> <li>・ シミュレーターを用いて喀痰吸引の基礎的知識・実施手順を理解し、安全・安楽かつ効果的に実施でき一人で実施できる。</li> <li>・ シミュレーターを用いて経管栄養の基礎的知識・実施手順を理解し、安全・安楽かつ効果的に実施でき一人で実施できる。</li> <li>・ 急変・事故発生時の対応としてシミュレーターを用いて救急蘇生法の基礎的知識、実施手順を理解し効果的に実施できる。</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</b>                  人間のからだのしくみの基本を理解し、根拠に基づいて科学的な医療的ケアを提供するために必要な知識を理解する。医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・安楽かつ効果的に実施できる技術を身につける。</p>																	
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p><b>基本研修</b>                  医療的ケアの講義を修得し、筆記試験の合格基準に達した者に限定</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; vertical-align: top;">1</td> <td style="width: 20%; vertical-align: top;">たんの吸引</td> <td style="width: 40%; vertical-align: top;">                     口腔内吸引                      鼻腔吸引                      気管カニューレ内                 </td> <td style="width: 30%; vertical-align: top;">                     5回以上                      5回以上                      5回以上                 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">2</td> <td style="vertical-align: top;">経管栄養</td> <td style="vertical-align: top;">                     胃ろうまたは腸ろう                      経鼻経管栄養                 </td> <td style="vertical-align: top;">                     5回以上                      5回以上                 </td> </tr> <tr> <td style="vertical-align: top;">3</td> <td style="vertical-align: top;">救急蘇生法</td> <td style="vertical-align: top;">救急蘇生法・AED 演習</td> <td style="vertical-align: top;">1回以上</td> </tr> </table> <p style="margin-top: 10px;">* 1・2の演習については、5回行い5回目が評価表の手順通りにできること、5回目手順どおりできない場合は、さらに継続して行う</p>						1	たんの吸引	口腔内吸引 鼻腔吸引 気管カニューレ内	5回以上 5回以上 5回以上	2	経管栄養	胃ろうまたは腸ろう 経鼻経管栄養	5回以上 5回以上	3	救急蘇生法	救急蘇生法・AED 演習	1回以上
1	たんの吸引	口腔内吸引 鼻腔吸引 気管カニューレ内	5回以上 5回以上 5回以上														
2	経管栄養	胃ろうまたは腸ろう 経鼻経管栄養	5回以上 5回以上														
3	救急蘇生法	救急蘇生法・AED 演習	1回以上														
<p><b>[使用テキスト・参考文献]</b>                  「医療的ケア」メジカルフレンド社</p>			<p><b>[単位認定の方法及び基準]</b>                  評価項目に基づき評価する                  すべての項目を合格した場合修了</p>														

## 授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 医療的ケアⅢ		授業の種類 ( 講義・演習・実習 (見学) )		授業担当者 塩澤 紀子・山本 浩美 (実務 看護師)																
授業回数	時間数	配当学年・時期 2年次・前期・後期		必修・選択 選択																
<p><b>[授業の目的・ねらい]</b> 医療的ケアを安全・安楽かつ効果的に実施するために必要な知識・技術を修得する。</p> <p><b>[授業全体の内容の概要]</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・医療的ケア実施の基礎を理解する。</li> <li>・利用者・家族の理解を得て、喀痰吸引の基礎的知識・実施手順を理解し、安全・安楽かつ効果的に実施（見学）できる。</li> <li>・利用者・家族の理解を得て、経管栄養の基礎的知識・実施手順が理解し、安全・安楽かつ効果的に実施（見学）できる。</li> </ul> <p><b>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</b> 指導看護師の指導を受けながら、利用者の心身の状態を正確に観察し、医師・指導看護師と連携し、 その指示に基づいて医療的ケアを安全・安楽かつ効果的に実施できる技術を身につける。</p>																				
<p><b>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</b></p> <p><b>実地研修</b> 医療的ケアⅠとⅡを修了した者に限る。 喀痰吸引・経管栄養を必要とする者・家族の書面による同意、医師・看護師等関係者による連携体制の確保等の要件を満たす必要がある</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%;">1 たんの吸引</td> <td style="width: 40%;">口腔内吸引</td> <td style="width: 45%;">10回以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>鼻腔吸引</td> <td>20回以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>気管カニューレ内</td> <td>20回以上</td> </tr> <tr> <td>2 経管栄養</td> <td>胃ろう又は腸ろう</td> <td>20回以上</td> </tr> <tr> <td></td> <td>経鼻経管栄養</td> <td>20回以上</td> </tr> </table> <p>*指定事業所にて、医師・指導看護師の指導のもと実施。実施困難な場合は<u>見学のみ</u>行う</p> <p><b>修了認定の条件</b> 規定回数以上の回数を実施し、下記の（ア）（イ）のいずれも満たすこと （ア）累積成功率 70%以上 （イ）最終3回のケアの実施において手順通り不成功が1回もない（連続3回成功）</p>						1 たんの吸引	口腔内吸引	10回以上		鼻腔吸引	20回以上		気管カニューレ内	20回以上	2 経管栄養	胃ろう又は腸ろう	20回以上		経鼻経管栄養	20回以上
1 たんの吸引	口腔内吸引	10回以上																		
	鼻腔吸引	20回以上																		
	気管カニューレ内	20回以上																		
2 経管栄養	胃ろう又は腸ろう	20回以上																		
	経鼻経管栄養	20回以上																		
[使用テキスト・参考文献] 「医療的ケア」メヂカルフレンド社			[単位認定の方法及び基準] 評価項目に基づき評価する すべての項目を合格した場合修了																	